

寸胴

Zun Dō

NO. 68 2023 Spring



ISSN 0915 8960

図書館ホームページ URL: <https://www.lib.gifu-u.ac.jp>

目 次

伝える、書く、残す—江戸時代の書物の世界から— 1 岐阜大学の古典籍(8)
～美濃の弟子がまとめた芭蕉の足跡～ 3

寄贈図書一覧(2022年7月～12月) 4
教養図書について 6
お知らせ 7



～伝える、書く、残す—江戸時代の書物の世界から—

芹口 真結子

江戸時代に生きた、ある僧侶の話を紹介しよう。

彼は、名を香月院深励(こうがついんじんれい)

(1749-1817) と言ひ、現在の真宗大谷派に属する学僧であった。冬季以外に京都にある学寮(大谷派の教学研究機関、大谷大学の前身)で、各地から参集した僧侶たちを相手に講義を行い、冬季には自身が住職を務める越前国金津永臨寺(現福井県あわら市)に帰った。その往復路や自坊滞在中、あるいは本山の仕事で各地に出張した際、門徒宅や寺院に立ち寄って法話を行い、多くの僧侶や門徒たちを教化した。彼の弟子は

多く、その学系からは、後に学寮の中核を担う学僧が何人も輩出されている。

では、講義の場や教化の場といった、さまざまな聴衆を相手に、彼はどのようなことを語っていたのだろうか。現代に生きる我々ならば、動画や音声、新聞記事や雑誌のコラム、各種 SNS といったメディアを通じて、著名人の発言内容をチェックすることが可能である。しかし、江戸時代は当然インターネットも録音機器等も存在せず、当時の僧侶による法話の内容を確認する手段はないように思われる。

しかし、実は、法話はその場で筆録され、清書されたものが筆写され、そして写本として流通していた。この写本は、近世宗教史研究で講録と称されている。写真1と2は、深励が学寮で親鸞『正像末和讃』をテキストに指定して講義した内容が筆記されている講録である。



写真1 香月院深励「正像末賛筆記」(筆者所蔵)

また、真宗門徒が多い地域の個人宅文書、村落文書、寺院文書には、深励などの学僧の講録が含まれていることがある。奥書などには筆写の開始・終了時期、講録の所持者といった情報が記載されることもあり、講録の入手経路が判明するケースも少なくない。つまり、講録は、内容を読むことによって江戸時代の人々が聞いた法話を、奥書などを読み取ることで写本をどのような人物が所持し、人から人へと書写されていたのかを、それぞれ読み取ることが可能な史料なのである。

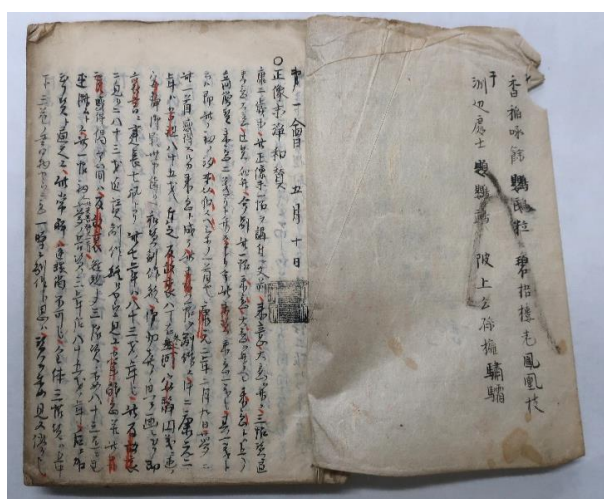


写真2 香月院深励「正像末賛筆記」(筆者所蔵)

深励の場合、本山御用書林を介してレンタルなどのかたちで商品化された学寮での講義記録が、そのほかの学僧よりも多く提供されている(もっとも、深励当人はこの商売を否定的に見ており、弟子に講義記録が流出しないよう指示を出している)。

ところで、江戸時代は商業出版が初めて日本列島に登場し、定着した時代である。上記で紹介してきた写本よりも、木版による印刷のほうが大量に本を作成することが可能である。それまで書籍は寺院僧侶や公家など、一部の身分階層にいる者が手にしてきたが、商業出版の成立により、本の知識は民衆にまで開かれるようになった。農書のように、民衆が自らの生活に根ざした知識を書籍にまとめることもあった。また、江戸時代後期になると、名主層が自家の蔵書を貸し出す動きも見いだされる[小林]。蔵書の貸し出しの際は貸借記録も作成されており、活発な書籍の流通を認めることができる。読書という行為をめぐっては、どのくらいの民衆が文字を読み書きできたのか、そして、どのレベルで読み書きができたのかといった、識字率や識字能力の考察が問題となる。現段階では、地域差や性差が大きく、また身分制社会であることを踏まえた上での検討が必須とされ、拙速な結論を出すことはできない。ただ、民間社会に図書館的な機能を有する蔵書が生まれていたことは、江戸時代の知をめぐる営為を考える上でも、興味深い現象である。

さて、商業出版と木版印刷の隆盛は、江戸時代の仏教界にも大きな影響を与えることとなった。引野亨輔氏によれば、江戸時代前期に各仏教教団が整備した教学研究機関で、僧侶に対する一斉教化が可能となった背景には、「完璧な画一性を備えた刊本の登場や、大量の「教科書」の準備をいといわない民間書林の営為」[引野：189頁]があったという。

以上からは、教学研究機関で、刊本の「教科書」を手にも学僧の講義を筆記して学ぶ学生僧侶の姿を思い浮かべることができる。このような、江戸時代の人々の学習方法や書物流通と受容に関することが、数百年ほどの時を隔てた現在の私たちにも想像することができるのは、当時の史料が現代に伝来しているためである。史料は、無条件に後代へと残っていくものではない。誰かが目的をもって残そうとし、戦争や災害などによる被災・散逸を免れて残されてきたものである。ただ、史料はあるがままの状態では利用することができない。一点一点情報を整理して目録化し、保存し管理する必要がある。

知識や情報もまた、史料の取り扱いと似たところがある。知識や情報は、そこにあるだけでは使いこなすことは難しい。ある手順や方法に沿って整序され、活用できる状態にならないとアクセスすることはできないし、その読みこなしがわからないと上手く生かすことも困難である。昨今は、インターネットで簡単に情報を得ることができるようになっていし、筆者自身もその恩恵

にあずかるところ大だが、確かな知識や情報は、書物を背景とした膨大な知の蓄積を土台に発信されている。電子化されていないものも多い。日頃図書館に慣れ親しんでいない方も、足を運んで書物を繙いてもらえたら、きっと新たな知の扉を開くことができ、豊かな世界を味わうことができると思う。

参考文献

小林文雄「近世後期における「蔵書の家」の社会的機能について」(『歴史』76、1991年)

引野亨輔「講釈と出版のあいだ」(島菌進他編『シリーズ日本人と宗教5 書物・メディアと社会』春秋社、2015年)

(せりぐち まゆこ：地域科学部地域文化学科地域構造講座 助教)

岐阜大学の古典籍 (8) 美濃の弟子がまとめた芭蕉の足跡

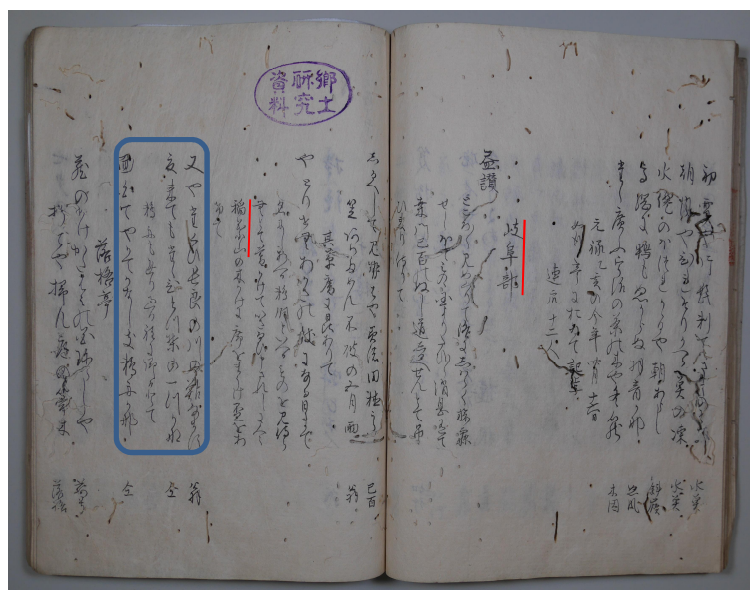
小川 陽子

今回は松尾芭蕉『奥の細道』を取り上げ、門人たちがいかに芭蕉の思いを継承しながら『奥の細道』を出版したかを確認しました。

芭蕉の門人は数多くいましたが、中でもすぐれた十人を蕉門十哲^{しょうもんじつてつ}と呼びます。この十人が誰を指すのかということについては諸説ありますが、その一人として名前が挙げられることの多い人物に、各務支考^{かみしこう} (1665～1731) がいいます。支考は、美濃国山県郡北野村(岐阜市山県北野)に生まれ、元禄3(1690)年芭蕉に入門、師の没後は美濃を本拠として蕉風の普及につとめ、美濃派と称される一派を築きました。没後、若き日々を過ごした大智寺(岐阜市山県北野)に葬られています。岐阜市ゆかりの俳人です。



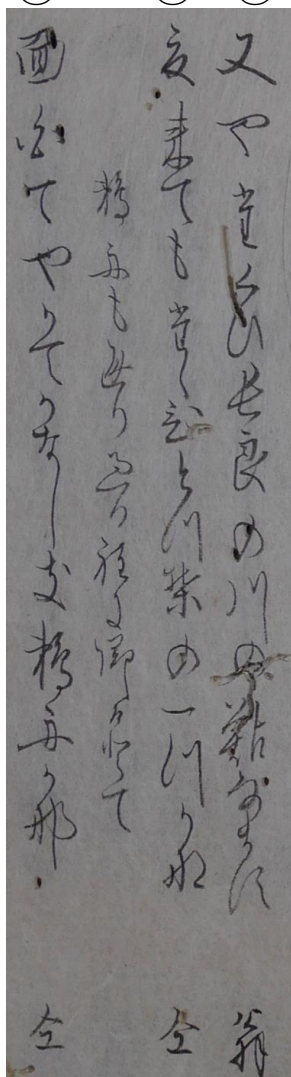
【写真1 表紙】



【写真2-1 本文】

支考の編著は多数ありますが、中でも芭蕉研究において重要資料として位置付けられているのが俳書『笈日記』(写真1)です。芭蕉は元禄7(1694)年10月12日に没しましたが、支考はその後ただちに芭蕉が足跡をのこした地方を巡り、各地の芭蕉遺吟・遺文や諸家の追悼句などを集めました。さらに支考自身の句文をも加えて一書としたのが『笈日記』です。元禄8(1695)年7月15日の支考序、同8月15日の奥書があります。作中には、芭蕉が発病した後、臨終・葬送に至るまでを詳細に綴った部分もあり、芭蕉の最晩年を記録したものとして大変貴重です。

② ① ③



【写真 2-2 本文より抜粋】

岐阜大学図書館には、この『笈日記』の写本が所蔵されています（整理番号 911.32 - 16 - 5361）。『笈日記』は版行されており、現存する『笈日記』の大半は版本です（国文学研究資料館「日本古典籍総合目録データベース」参照）。岐阜大学本は数少ない写本の一つであり、かつ、【写真 2-2】①では版本が「夏来てもたゞひとつ葉の一葉哉」（版本）とするところの下線部を「一つかな」（『^{あら}曠野（泊船集書入）』〈『新編日本古典文学全集 松尾芭蕉集（1）』〉と同句形）とする等の小異がある点でも注目されます。なお、岐阜大学図書館には、この他にも支考の著作が多数所蔵されています（『葛の松原』『東西夜話』『本朝文鑑』等）。

上述のとおり『笈日記』には各地における芭蕉の足跡が記し留められています、そこには岐阜・大垣も含まれており、芭蕉がこの地をおおいに堪能したことが数々の句からうかがえます。具体的に岐阜部（写真 2-1 赤線部分）を紐解いてみましょう。【写真 2-1】の青枠の直前には稲葉山（写真赤線部分）の名が見えます。鵜飼見物に誘われ、稲葉山の木陰で宴席に参加した芭蕉が詠んだのが、【写真 2-2】②「面白てやがてかなしき鵜舟かな」という著名な句でした。宴席では長良川の特産品である鮎を調理した鮎膾^{あゆなます}が供され、これを賞味した芭蕉は、【写真 2-2】③「又やたぐひ長良の川の鮎なます」とその美味しさを絶賛しています。

支考は、郷里美濃における亡師芭蕉の足跡をどのような思いでまとめたのでしょうか。その心中がしのばれます。

（おがわ ようこ：教育学部国語教育講座 准教授）

寄贈図書一覧（2022 年 7 月～12 月）

2022 年 7 月～12 月に図書館にご寄贈いただいた図書の中で、本学教職員が著作・編集・刊行等に関係した図書を掲載します。ご寄贈いただき、ありがとうございました。

※紹介文は著者または編者本人による

●牧 秀樹（地域科学部）

・最小日本語テスト(MJT)ドリル/ 牧秀樹著，開拓社，2022.8【図本館 3 階 810.79||Mak】

日本語を外国語として勉強している方、頭の体操が好きな方、ゲーム感覚の日本語ドリル MJT をどうぞ。CD を聞きながら、括弧の中にひらがなを一つ入れるだけ。高齢者の方々にも喜ばれています。MJT 24 題収載。

・最小韓国語テスト(MKT)ドリル/ 牧秀樹著, 開拓社, 2022.8【図本館 3 階 829.1||Mak】

現在韓国語学習中、韓国留学思案中、韓流ドラマに没頭中、そんな方に、ゲーム感覚の韓国語ドリル MKT をどうぞ。CD を聞きながら、括弧の中にハングルを一つ書き入れるだけ。なぜか力がつきます。MKT 24 題収載。

・最小中国語テスト(MCT)ドリル/ 牧秀樹著, 開拓社, 2022.8【図本館 3 階 820.79||Mak】

現在中国語学習中、中国留学思案中、華流ドラマに没頭中、そんな方々に、ゲーム感覚の中国語ドリル MCT をどうぞ。CD を聞きながら、括弧の中に漢字を一つ書き入れるだけ。なぜか力がつきます。MCT 24 題収載。

●杉山 真魚（教育学部）

・装飾の夢と転生：世紀転換期ヨーロッパのアール・ヌーヴォー 第1巻
/ 白田由樹, 辻昌子編著；杉山真魚〔ほか〕著, 2022.10【図本館 3 階 702.07||Sos】

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてヨーロッパ各地で展開されたアール・ヌーヴォーなどの装飾芸術の動向を、つくり手とパトロン、援助者、メディア、同時代文学との関係から捉え直す論考集。イギリス・ベルギー・フランス編。

●別府 哲（教育学部）

・自閉症のあるぼくの毎日/ 別府哲 日本語版監修, 大月書店, 2022.9【図本館 3 階 378||Sch】

アメリカで刊行された児童書の翻訳。実在する自閉スペクトラム症の子ども自身を語り手として、自分がどんな毎日を過ごしているか語る、小学校低学年からの障害理解のための絵本。障害のある子どもの思い、願いにふれることのできる一冊となっています。

・発達診断の基礎理論

/ 白石正久, 白石恵理子編 全国障害者問題研究会出版部, 2022.8【図本館 3 階 378.8||Hat】

発達診断は、子どもの発達を全体としてとらえ（個別の機能－認知、情動など－に切り分けず、機能を関連したものとしてとらえる）、その子どもの隠れた願い、苦しみ、思いをとらえるために使われます。本書では具体的な写真や事例を挙げながら、ライフサイクルを通して、また障害の無い人と障害のある人も含めて、発達診断の実際をわかりやすく説明しています。自閉スペクトラム症もこの本の中の一章として取り上げられています。

・自閉スペクトラム症児者の心の理解

/ 別府哲著 全国障害者問題研究会出版部, 2019.8【図本館 3 階 378.8||Bep】

自閉スペクトラム症は、他者の心を読むのが苦手、だから他者に共感することに障害をもっているといわれます。しかし当事者と出会い関わると、自閉スペクトラム症はユニークではありますがその人なりのやり方で他者の心を読んでいくことによく気づかされます。ただ、それが障害の無い人とは心の読み方が異なるだけなのではないのでしょうか。実践などを通して、そのユニークな心の理解の在り様について検討する内容となっています。

・「自尊心」を大切にしたい高機能自閉症の理解と支援

/ 別府哲, 小島道生編 有斐閣, 2010.6【図本館 3 階 378.8||Hat】

知的に遅れない自閉スペクトラム症の子どもは、学校では通常学級に在籍することが多いといわれています。自閉スペクトラム症のある子どもを、個別に支援する本は多いのですが、本書は、学級集団の中でどのように理解し支援していくのかについて、具体的な実践を取り上げて論じている点が特徴です。また、ただ本人を誉めることだけでは、自尊心が大切にされたとはいえません。本人が活躍できる場をどう作るか、充実感を感じられる学習や生活をどう保障するか、他者を認めあえる仲間集団（学級集団）をどう形成するか。それとセットになって初めて、認められる、褒められることが本人に響きます。そういった視点からさまざまな年齢の自閉スペクトラム症の人の理解と支援について論じています。

～教養図書について～

図書館では各分野の専門書だけではなく、初心者や初学者向けの図書も数多く取り揃えております。その中でも今回は、文庫・新書や漫画、解説シリーズを集めた教養図書コーナーを紹介させていただきます。

【文庫・新書】

各出版社が販売している文庫・新書を分野別に配架しています。時代を問わず、幅広く様々な内容の図書が揃っており、時事問題の学習に役立つ情報もあります。3階東側、黄色と緑の看板が目印です。



※分野別に2か所に分かれていています。

【シリーズもの】

いくつかの解説シリーズが配架されていますが、特にご紹介したいのが“まんがで読破”シリーズ。コンセプトは、「漫画で名著を楽しもう」（公式HPより）で、日本国内の文学に限らず、海外文学や政治論・経済論、聖書やコーランに至るまで、「題名は知ってるけど内容は知らない!!!」「気になるけど難しそう…」「文字ばかりで読み切れる気がしない」「集中力が保てない」など、敷居が高いと思われがちな”名著”を漫画化し、出版された図書になります。

コンパクトにまとめてあるため、授業の主題になっている、課題図書になった、など、読まなければならないくなった時の原作へのハードルをぐっと下げてくれます。昔教科書に載っていたあの作品、こんな話だったのか…と読み直してみるのもよし、こちらのシリーズだけ読んでとりあえず話を知っておくのもよし。

まずは1冊手に取ってみてください。（3階東側の窓際に書架があります。）



課題や専門についての図書を探す以外にも、図書館を利用する方法は様々です。

図書館がより身近な存在になりますよう、多くの資料と共に皆様のご来館をお待ちしています。

（資料サービス係 村上詩織）

お知らせ

みんなの推し本 展示します

岐阜大学図書館では、定期的にテーマを変えながら来館する皆さんに向けてお勧めの図書の紹介展示を行っています。(【写真1】)

2023年4月3日からは、昨年春に続き、「岐阜大学・名古屋大学合同企画展示」として開催しております。各大学の学生・教職員問わず、皆さま方から広く"推し本"を募集して紹介する企画です。休憩時間の息抜きに、大学生活や仕事で不安になった時に、など推薦理由も様々です。ぜひお手に取って、"推し"から広がる世界を味わってみてください。



【企画ポスター】

<展示期間>

2023年4月3日(月)～6月30日(金)

企画紹介ページはこちら↓

<https://www.lib.gifu-u.ac.jp/list/theme.html>

<注意事項>

- ・展示は所蔵している資料(電子書籍を含む)に限ります。
- ・応募多数の場合はすべてをご紹介できないことがあります。
- ・コメント他、入力した情報は展示等に利用する場合があります。



【写真1 紹介展示例 (2022.4)】

My Library にアクセスする際のアカウントが変更されます

法人統合に伴い、2023年4月から岐阜大学・名古屋大学共通のアカウント運用が始まります。

これまでは入学時に付与される学籍番号をもとにしたアカウントをログインに使用していましたが、今後は東海国立大学機構アカウントを利用してのログインとなります。ご不明な点は、図書館2階カウンターまでお問い合わせください。

岐阜大学機関リポジトリは新しいシステムに移行します

岐阜大学機関リポジトリは2023年4月10日から新しいシステムに移行します。

それにともない、登録されている論文等の詳細画面やPDFファイルのURLが変わります。ただし、恒久的な識別子(CNRI handle)は変わりません。handle URLを表示すると新しい機関リポジトリの画面で該当コンテンツが表示されます。詳細は、図書館ホームページ「お知らせ」にてご確認ください。

/// お知らせ ///

岐阜大学図書館・社会人リテラシー科目「日本語表現Ⅰ（初級）」合同企画 — テーマ展示「書評レポート」—

2022年4月から、1年生必修の全学共通教育 社会人リテラシー科目「日本語表現Ⅰ（初級）」が、新規開講しました。コミュニケーション力や文章表現力の向上を目的としたオンデマンド型授業です。前学期末の課題では、友達に紹介したい本を選んで書評レポートを執筆、併せてパワーポイントでスライドを作成し、受講生 971 名が相互に評価を行いました。その成果を受講生以外の学生とも共有するため、学生相互評価上位 100 名の書評レポートと上位 6 名のスライド、対象の書籍等を、テーマ展示「書評レポート」として図書館で展示しました（展示期間：2022 年 10-12 月）。

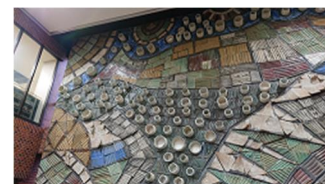
多くの学生が展示コーナーに立ち止まってスライドを見たり、書評レポートのファイルを手に取ったりしていたことに加え、前年の同時期に比べ展示図書の貸出が約 5 倍に増え、同年代が読んだ図書への関心の高さがうかがわれました。後学期の優秀作品についても、新年度 4 月から展示を予定しています。



※図書館サービスの内容は感染症の流行等により変更となる可能性があります。
最新の情報を図書館ホームページにてご確認ください。

【タイトル「寸胴」について】

図書館エントランスホールにある陶壁画「寸胴譜」（作：九谷興子 1911-1998）は、陶器の原型「寸胴」を学生や若い研究者になぞらえ、社会への飛躍をイメージした作品で、図書館報のタイトルはそこから採っています。



岐阜大学図書館報「寸胴」第 68 号 2023 年 3 月 31 日

編集・発行 岐阜大学図書館（学術情報課）

〒501-1193 岐阜市柳戸 1 番 1 ☎058-293-2184